

9条まもろう

ストップ安倍改憲

首相が書き込むのは

海外で戦争する軍隊

安倍政権は末期状態ですが、9条改憲には異常な執念を燃やしています。

首相が9条に明記しようとする自衛隊は、災害救助に汗を流す自衛隊ではありません。安保法制によって集団的自衛権を行使し、長距離巡航ミサイルや空母を持ち、専守防衛をかなぐり捨てた自衛隊。「日報」を隠ぺいし、国民に選挙で選ばれた国会議員を「国民の敵だ」と罵倒する自衛隊です。

こんな自衛隊に大きな権限を与える9条改憲は、あまりにも危険です。海外で戦争する軍隊への変質を許してはなりません。

米朝首脳会談

「戦争の暗雲払った」文在寅 韓国大統領

朝鮮半島に立ち込めていた戦争の暗雲をついに払いのけ北朝鮮問題の恒久平和への力強い歩みを本格的に踏み出せるようになりました。(6月14日の国家安全保障会議での発言)

朝鮮半島の非核化へ

世界で力をあわせよう

日本共産党

6月12日、シンガポールのカペラホテルで合意文書に署名後、握手を交わす米朝両首脳。同日放映NHKテレビより



対話による平和解決を いっかんして追求してきました

共産党は、北朝鮮の核開発は許せない、戦争だけは絶対に起こすな、対話による平和解決を、と呼びかけ。4月には朝鮮半島の非核化と北東アジアの平和体制づくりを一体的・段階的に進めて欲しいと、日本政府・関係各国に要請しました。

日朝平壤宣言を指針に 平和な北東アジアを つくるという立場で

米国と北朝鮮が初の首脳会談で「戦争と敵対」から「平和と繁栄」という新しい関係の確立を約束し、朝鮮半島の平和体制の構築と非核化で合意しました。米朝首脳間の初めての合意であり、簡単には後戻りできない重みがあります。

共産党は、始まった平和のプロセスを成功させるため、関係各国、国際社会の協調したとりくみ、世論と運動の前進へ力をつくします。



安倍首相(左端)と会談する(右)志位委員長、小池書記局長。4月9日

拉致問題は、日朝間の諸問題に優先順位をつけず、すべてをワンパッケージで解決するという「日朝平壤宣言」(2002年)を指針にしてこそ解決へ道が開けます。

日本外交にも、北東アジアの平和体制をどうつくるか、主体的なビジョンが必要です。